



人間なんだから

羽田 京子

ケータイを使うのを少しやめよう
一日中いじっている人がいる頭によくない
人と人のつながり団結してひとつの事に夢中になるにも
人はひとりでは生きてゆけない 親しい人を探し友となる
みんなでつながろうよ
お金がないとだめだというけど今はそうでもないと思う
人間は人間性があり 機械ではない
AI時代だけと昔を思い出そうよ
都会ではわからないけどたまには田舎に帰っておいで
リフレッシュできるよ
ケータイのないと困る大人、子供はまりすぎもよくないよ
いろんな人の考え方があるとは思っけど
私は人間、時の流れは早いけれど口は答えるよ
YES, NO, Y
だって生きているんだもの 人間なんだから

空と雲と雨

吉田 沙緒里

空は青くてきれい
雲は白くてフワフワ
雨はつめたくて
ちよっとやだな
でも傘をさせば
つめたくないね
空も雲も
さわれないけど
そうぞうするだけで
笑顔になっちゃう



佳作

母へ

望月 ともし

ごめんなさい。お母さん。
私が病気になっちゃって。
ごめんなさい。お母さん。
この前も先生に
「お薬はずっと飲まなきゃいけないよ。」って
言われました。
ごめんなさい。お母さん。 本当にごめんね。
お母さんの娘が、私で。

入選

命と自由

する

自由にいきたいと思います
自由に動かない手足と 通じない言葉
日は昇り 日は沈む 無情の時の流れの中で
精一杯希望を持って 命の限り
無為自然に 生きるだけです



生きていくこと

星空 龍李

生きていることは残酷で
死んでいることは極楽だと思っていた
でも実際は違っていた
生きていることは辛いですが時に楽しみがあり
死という世界は生きていることを証明する世界
生きていることがどんなに辛くとも
生きていることさえできれば
何でもできる
生きていることが辛いとわかって
自分を見つめ直せる
そう気づいた時
人生は変わるのであろう

入選

五月の朝

市村 未央

朝もやの中のバラ
咲きはじめたつぼみ
薄いピンクが香る

マロニエも咲く
広い芝生を前にして
堂々と

ステイールのビッグアップル
もやの晴れた朝日を浴びて
無数の反射

しばらく閉まっていた
公園の朝の散歩
静かな時間と
おだやかな気持ち
五月の朝



入選

私は今年六十二歳

河田 妙子

私は今年六十二歳
母が亡くなった歳になる

思えば私の人生は
棘つづきの道だった

物心つく頃から他人ひとの顔色を窺い生きてきた

朝起きてから寝るまで他人(ひと)の手を借り
自分で出来ることといえは
観ることと、聴くことと、喋ることと、

家族の人生を大きく変え
何人の手を煩わせて来たのだから

障害という体は
死ぬまで私を離さないだろう

震えるほどの悲しみにであってても
心が砕けそうな苦しみであってても
身動き出来ないような孤独に縛られても
運命に抗うこともできず生きてきた

せめてもの願いは
あまり永くくるとは
他人ひとの手を煩わすこと無くこの世を去りたい



差別

乙黒 初音

生きる権利は皆平等にあるのに
障がいを持っていてるだけで
哀しい現実に突き当たるとき
なぜ生まれただろう
なぜ苦しみの中でたうち回り
一日を折り畳む
せめて、一時
この空に抱かれて
自由にはばだきたいと
痛む身体を抱きしめて祈るとき
朝になってしまったけれど——
差別のない世の中になってほしいと
みんなが支えあって
生きていけるようにと
小さな身体の芯をあたたためる
だってそうでしょう
みんな人間は淋しさと向き合いながら
お互いに歩みよれば
コロナだって乗り越えていけるし
差別のない社会も
きっと近づくんだって思う
冬の入り口で立ち止まっているわたしも
きっと歩き出せるから……

令和2年度 『一筆の主張』

【 詩の部 入選3篇 佳作1篇 】

入選1位	「五月の朝」	市村 未央
入選2位	「命と自由」	する
入選3位	「私は今年六十二歳」	河田 妙子
佳 作	「母へ」	望月 ともこ

以上

【 審査員 】 竹内 冬眠